

原 著

本学における生体肝移植の現況

森 岡 大 介, 渡 會 伸 治, 武 田 和 永, 松 尾 憲 一,
上 田 倫 夫, 清 水 哲 也, 田 中 邦 哉, 遠 藤 格,
関 戸 仁, 嶋 田 紘

横浜市立大学大学院医学研究科 消化器病態外科学

要 旨：教室では1997年11月から2006年8月までに主に成人症例を対象に生体肝移植を28例施行した。対象疾患は劇症肝炎8例，原発性胆汁性肝硬変5例，B型肝炎肝硬変4例，肝細胞癌4例，acute on chronic hepatitis 2例，C型肝炎肝硬変3例，アルコール性肝硬変1例，全身性アミロイド症1例で術後累積患者生存率は1，3，5，及び7年ですべて75.4%であった。致死的及び重大な後遺症を伴うドナー合併症は認めず，28名の生体肝ドナーは全例2ヶ月以内に術前の社会活動に復帰した。現在，神奈川県下で成人間生体肝移植を行う施設は本学のみであり，今後もコンスタントに生体肝移植を施行していく必要性が示唆された。

Key words: 成人間生体肝移植 (adult-to-adult living donor liver transplantation)
